

# 環境経営レポート 2020年10月～2021年 9月

2021.12.16 発行 第 17 号

私たちは 誠心誠意 お客様に満足いただける製品を作ります



社屋の窓から

2021.10.20 撮影

私たちは、地域と地球の  
環境に配慮した事業者です



®環境省

エコアクション21  
認証番号 0000844

株式会社 エスイーアイ

〒410-2133 静岡県伊豆の国市菰山多田 59

TEL. (055)949-8701

FAX. (055)949-8746

URL <http://www.kksei.co.jp>

## — 目 次 —

1. 組織の概要	3
2. 対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間及び発行日	3
3. 環境経営方針	4
4. 実施体制	5
5. 環境経営システムの資源、役割、責任及び権限表	6
6. 環境経営目標	7
7. 環境経営計画及び取組内容	8
8. 環境経営目標の実績	9
9. 環境経営目標及び環境経営計画の取組結果とその評価	10
<b>トピックス</b>	
再生可能エネルギー（太陽光発電）3年間の成果	11
10. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	12
11. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無	14
12. 代表者による全体の評価と見直し・指示	15

## 1. 組織の概要

### (1) 事業者名及び代表者名

会社名	株式会社 エスイーアイ		
代表者名	代表取締役 会長	佐藤 勝彦	
	代表取締役 社長	佐藤 英紀	

### (2) 所在地

本社・本社工場：〒410-2133 静岡県伊豆の国市菰山多田 59

### (3) 環境保全関連責任者及び担当者連絡先

責任者	代表取締役 社長	佐藤 英紀 (環境管理責任者)
	取締役 製造部長	宮内 正昭 (環境管理副責任者)
担当者	顧問	矢野 清志 (環境管理事務局長)
連絡先	TEL. (055)949-8701	FAX. (055)949-8746

### (4) 事業内容

制御装置の設計・製造
プリント基板の設計・製造
電子機器の製造・修理

### (5) 事業の規模

出荷高	4 7 9 百万円 (第 41 期 2020 年 10 月～ 2021 年 9 月)
従業員	4 5 名
延床面積	1, 4 2 7 m <sup>2</sup>

## 2. 対象範囲 (認証・登録範囲)、環境経営レポートの対象期間及び発行日

### (1) 適用する事業所 (全事業所)

- A. 本社事務所
- B. 本社工場

### (2) 適用するサービス

- 1. (4) 事業内容に同じ

### (3) 適用する従業員

全ての従業員



### (4) 環境経営レポートの対象期間及び発行日

- ・対象期間：2020 年 10 月 1 日～2021 年 9 月 30 日
- ・発行日：2021 年 12 月 16 日 第 17 号

## 3. 品質環境経営方針

## 株式会社エスイーアイ 品質環境経営方針

## 〔基本理念〕

株式会社 エスイーアイは、顧客志向を第一とし、品質及び環境活動への配慮企業として、従業員一丸となって、積極的な取組みを通じて、限りない社業発展と共に、社会的責任を果たしてまいります。

同時に、提供製品の制御盤、基板及びその周辺機器については、可能な限りの環境配慮を実践すると共に、顧客第一を掲げ、顧客満足の向上を目指して行動します。

社訓 私たちは 誠心誠意 お客様に満足いただける製品を作ります

## 〔行動指針〕

株式会社 エスイーアイは、当社のすべての事業活動において、お客様の期待に添い、飽くなき品質向上を目指すと共に、地球環境保護の為に、汚染の予防を図り環境に優しい省エネ・省資源・リサイクルなどに配慮したものづくりを推進いたします。

そのために、次項の実行を可能な限り実践し、当社のパフォーマンスの向上を目指し、継続的な改善を図ります。

## 1. 生産性向上

当社は顧客のニーズにこたえるため、品質管理向上と不良削減活動を推進し、資源の有効活用と顧客満足度向上に努めます。

## 2. 目標の設定のための枠組み

当社は次の事項を重点的なテーマとして、全社目標を設定し、効果的な取組みを行います。

- 1)不良削減活動や業務効率化に向けた生産性向上
- 2)環境負荷に基づく CO2 排出抑制、廃棄物排出抑制、化学物質使用量抑制
- 3)円滑な業務遂行に向けた改善提案の推進

## 3. 法規制と顧客要求事項の順守

環境法規制、及び当社が同意する顧客要求事項を順守し、可能であれば自主基準を設けて管理レベルの向上を図り、事業活動の向上に努めます。

## 4. 継続的改善

当社は全社の事業活動を通じて、品質環境パフォーマンス向上を目指し、継続的な改善を図ります。

## 5. 社会的貢献

当社は環境保全関連の行政機関・団体などの環境保全施策に協力し、社会貢献活動を推進します。

## 6. 品質環境経営方針の公開

この方針は、当社で働く又は当社に協力いただく全ての人に周知すると共に、一般の人々に公開し、理解と協力を求めています。

制定日 2021年9月10日

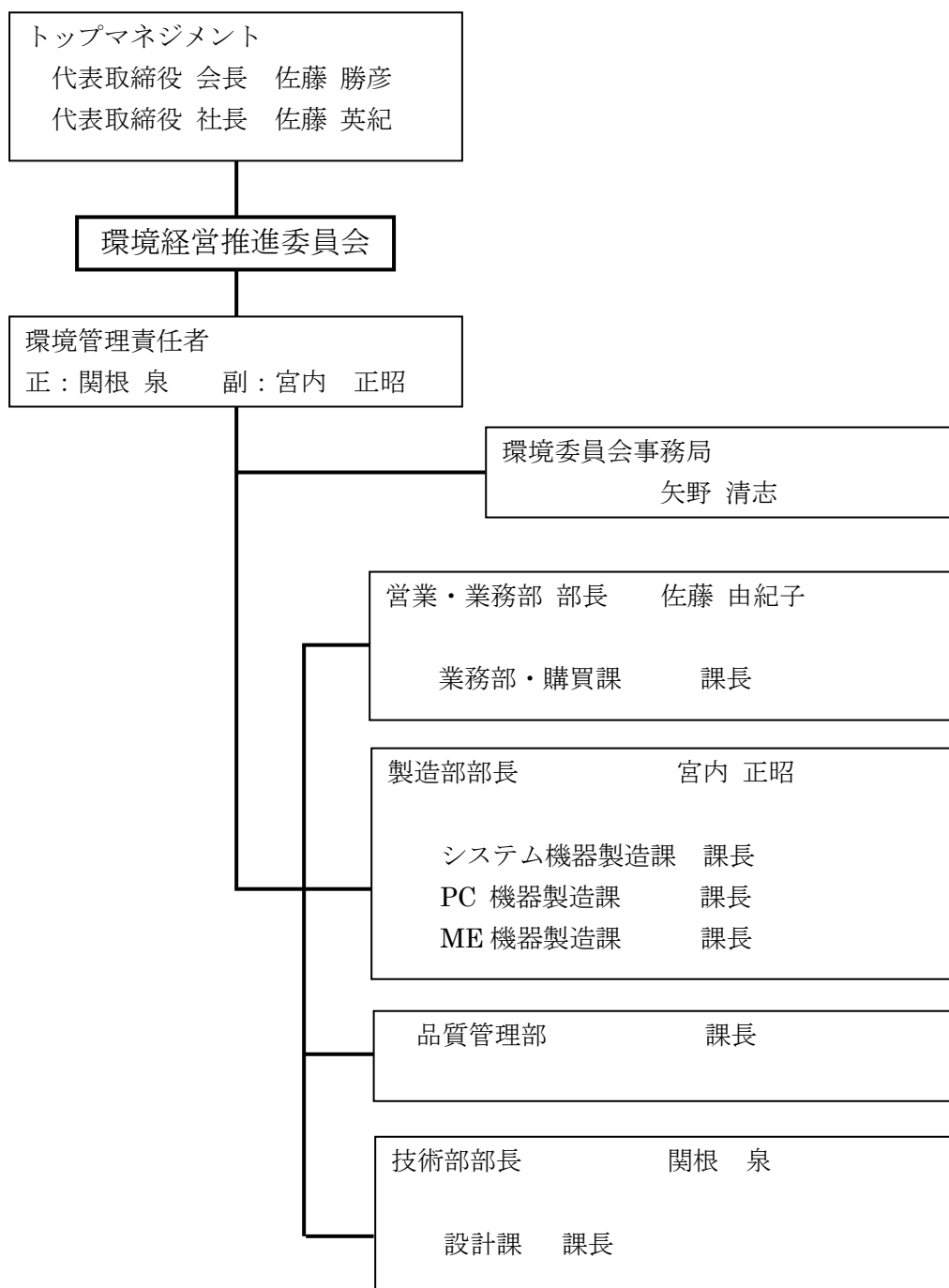
株式会社 エスイーアイ

代表取締役 会長 佐藤 勝彦

代表取締役 社長 佐藤 英紀

## S E I 環境経営システム実施体制

制定：2021.12.10



## 5. 環境経営システムの資源、役割、責任および権限表

部署等	責任者	主な役割、責任および権限
代表取締役	会長 社長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 環境経営方針の制定</li> <li>○ 環境管理責任者、副責任者および環境管理事務局長の任命</li> <li>○ 環境経営システムを確立し、実施し、維持し、改善する為に不可欠な経営資源を確実に利用できる状況をつくる</li> <li>○ 環境経営システムの全体の評価と見直し</li> <li>○ 各部署「業務効率向上実施計画」のヒアリング・承認</li> <li>○ 緊急事態発生時の統括</li> </ul>
環境管理責任者  環境管理副責任者	会長（社長）が指名する正・副各1名  副は責任者が不在時に代行する	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 環境経営システムの確立、実施、維持</li> <li>○ 環境経営方針の社員等および当社のために働く全ての人への周知、社外への公開</li> <li>○ 環境への負荷の自己チェックの承認、周知、レビュー</li> <li>○ 環境関連法規等登録の承認、周知、レビュー</li> <li>○ 環境経営目標の承認、周知、レビュー</li> <li>○ 環境経営計画の承認、周知、進捗状況の把握、レビューと会長・社長への報告</li> <li>○ 環境教育・研修実施計画の承認、実施記録の承認</li> <li>○ 環境外部・内部情報の取扱いの決定、環境外部情報の対応方法の検討、対応結果の確認</li> <li>○ 「環境経営マニュアル」等の承認、廃止、レビュー</li> <li>○ 著しい環境側面に関する事項の供給業者への対応指示</li> <li>○ 不適合是正処置結果の承認、潜在する不適合予防処置結果の承認、助言</li> <li>○ 環境経営システムの全体の評価と見直しに必要なインプット情報の会長（社長）への報告</li> <li>○ 「環境経営レポート」の承認</li> <li>○ 緊急事態発生時の対応実施と報告</li> </ul>
環境経営推進委員会	（委員長） 環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 環境経営目標の審議</li> <li>○ 環境経営システムの見直しの審議</li> <li>○ その他、環境経営システムに関する事項の審議</li> </ul>
環境管理事務局	環境管理事務局長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 環境経営方針の起草・立案</li> <li>○ 環境への負荷の自己チェック、環境への取組への自己チェックの実施、著しい環境側面の立案</li> <li>○ 環境法規制等の情報収集、確認、管理</li> <li>○ 環境経営目標の立案および環境経営計画の立案、推進、管理</li> <li>○ 環境教育・研修実施計画の作成・推進、一般教育・研修の実施</li> <li>○ 法定資格及び作業経験等の力量保有の確認</li> <li>○ 環境外部・内部情報の入手、伝達、管理のとりまとめ</li> <li>○ 「環境経営マニュアル」等の作成、改定、保管</li> <li>○ 著しい環境側面に関する事項の供給業者への伝達</li> <li>○ 環境経営目標の進捗状況の管理と不適合是正</li> <li>○ 環境法規等遵守状況の管理と不適合是正</li> <li>○ 緊急事態対応訓練の実施</li> <li>○ 社会貢献活動の計画、実施</li> <li>○ 「環境経営レポート」の作成</li> <li>○ 環境記録の管理</li> </ul>
各部署	部署の長 （環境経営推進委員会委員）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 環境側面（業務効率向上）の洗い出し</li> <li>○ 業務効率向上実施計画の立案、推進、管理と不適合是正並びに予防処置の実施と報告</li> <li>○ 環境経営システムの円滑な運営のための環境管理事務局への協力</li> <li>○ 各部署における環境活動の実施・推進</li> <li>○ 環境に関する各種情報の部署内への広報</li> </ul>

## 6. 環境経営目標

### (1) 中長期目標(2021年度～2023年度までの3年間)

	テーマ	担当部署	中長期の目標
1	二酸化炭素 排出量削減	全部署	過去15年間で省エネ設備への切替えも終わり大幅な削減は見込めない。短期目標は定めず業務全体における「電力・化石燃料使用量(システム制御売上高当りを原単位とする)」を、過去3年の平均実績(164kg-CO <sub>2</sub> /百万円)以下で削減に努める。 注)電力は2020年東京電力エナジーパートナー(株)公表の調整後排出係数0.455 kg-CO <sub>2</sub> /kwhで算出
2	廃棄物排出量 削減	全部署	業務全体における「可燃廃棄物」を、2020年度目標の762kgより3%削減する739kg以下を3年間の目標とする。
3	総排水量削減	全部署	水は主として生活系で使用しており、生産工程系ではほとんど使用していない。 節水に関しては今までに改善を行ってきており今後、更なる環境影響度の大きな効果が見込めないため数値目標を定めずに節水に努める。
4	化学物質使用量 削減	全部署	化学物質(PRTR)は主にプリント基板製造の半田付けであり、今後大きな効果が見込めないため数値目標を定めずに削減に努める。
5	生産性の向上	全部署	ISO9001:2015 マネジメントシステムの運用本格化。 各部署で課題を決め、品質目標を設定する。
6	グリーン購入 比率の向上	事務局	今年度より事務消耗品、工具および設備品のグリーン購入品切替目標を定めず、グリーン購入切替えに努める。
		業務・購買 関連部署	半導体および制御部品はほぼ切替えが終わり、大きな効果が見込めないため、数値目標は定めずにグリーン購入切替えに努める。
7	社会貢献活動	全部署	「小さな親切」運動の会員として地域の清掃活動に毎年参加する。

### (2) 単年度目標

	テーマ	2021年度目標(2020.10～2021.9)	数値目標
1	二酸化炭素 排出量削減	過去3年の平均実績以下で削減に努める。	164kg-CO <sub>2</sub> /百万円以下
2	廃棄物排出量削減	可燃廃棄物を削減する	739.0kg 以下
3	総排水量削減	節水に努める	
4	化学物質 使用量削減	数値目標を定めずに削減に努める。	
5	生産性の向上	ISO9001:2015 マネジメントシステムの運用本格化。 (各部署で課題を決め品質目標を設定する)	
6	グリーン購入 比率の向上	事務・設備購入品・購買品 ：数値目標は定めずにグリーン購入切替えに努める。	

## 7. 環境経営計画及び取組内容

取組項目		主な取組内容	日程	担当者	責任者
1.二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	毎日のチェックリストによる確認と節電の継続	年間継続	当番	所属長
		エアコン運転ガイド(冷暖房温度と運転時間)による運転の励行		所属課長	
		エアコンフィルターの定期点検・清掃の実施		当番	
		不要な照明は個別スイッチでこまめに OFF		全社員	
	太陽光発電(売電) 監視・記録	年間継続	事務局長	事務局長	
化石燃料の節減	社有車のエコドライブの推進	年間継続	運転者	所属長	
2.廃棄物排出量の削減	可燃廃棄物の削減	「廃棄物分別/排出の流れ」のルールを実践継続	年間継続	全社員	所属長
		機密文書の溶解委託(リサイクル)			
		燃やせるゴミの記録(ゴミ袋をカウント)			
		プラスチックゴミの記録(ゴミ袋をカウント)			
産業廃棄物のリサイクル化	分別の徹底で再利用とリサイクル業者へ	年間継続	全社員	産廃管理者	
3.上水道使用量の削減	全部署 維持管理	手洗い・トイレ等の生活水を節水	年間継続	全社員	所属長
		上水道使用後の閉栓の確認			
	担当部署	漏水の防止(検針結果で漏水チェック)		事務局長	事務局長
4.化学物質使用量の削減		PRTR 物質の購入量を把握及び維持管理	年間継続	所属課長	所属長
5.生産性の向上	2020/12 までに ISO9001 認証取得する。 ⇒ 2020/12/10 認証登録	部署単位で改善の実行計画立案・実行	実行計画	部署単位	所属長
		社長とのヒアリング			
		P⇒D⇒C⇒A⇒でスパイラルアップ			
6.グリーン購入の推進	事務・設備購入品	環境への負荷が少ないものを進んで購入	年間継続	関係部署	所属長
	購買品	RoSH 対応品などグリーン購入品切換えを積極的に行う			
7.社会貢献活動の継続	「小さな親切」運動	「クリーン作戦」に毎年参加	2月	社員	事務局長
		「使用済み切手収集活動」の継続	年間継続	総務・購買	
	地域の清掃	運動公園のゴミ拾い	4月	全社員	



## 8. 環境経営目標の実績

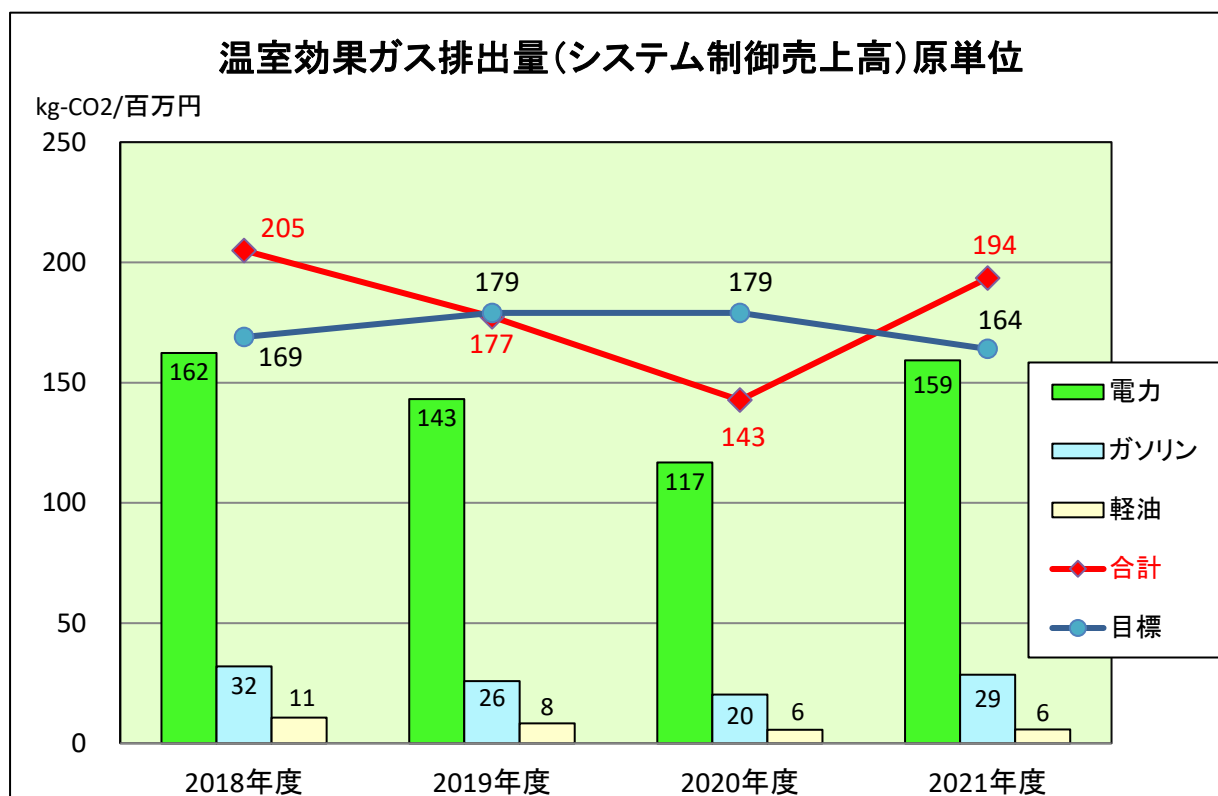
過去3年間の環境への負荷の状況（購入電力の調整後排出係数：0.455 kg-CO<sub>2</sub>/kwh）

□総量

項目		単位	2019年度 (2018/10 ~2019/9)	2020年度 (2019/10 ~2020/9)	2021年度 (2020/10 ~2021/9)	対前年度 比率
エネルギー使用量	購入電力	kwh	128,900	139,805	147,575	105.6%
	ガソリン	L	4,933	5,133	5,184	101.0%
	軽油	L	1,285	1,065	935	87.8%
	液化石油ガス(LPG)	kg	70	67	29	43.3%
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	73,618	78,469	83,502	106.4%
廃棄物排出量及び 廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再資源化量	720	1060	878	82.8%
		廃棄物量	580	640	505	78.9%
	産業廃棄物	循環資源量	740	2363	1,633	69.1%
		最終処分量	740	2363	1,633	69.1%
水使用量	上水	m <sup>3</sup>	382	414	418	101.0%
化学物質購入量	PRTR 対象物質	kg	120	64	41	64.1%

■原単位換算

項目		単位	2019年度 (2018/10 ~2019/9)	2020年度 (2019/10 ~2020/9)	2021年度 (2020/10 ~2021/9)	対目標値 削減率
システム制御装置売上高当り（原単位）						
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	Kg-CO <sub>2</sub> /百万円	177.0	143.0	193.8	164以下 118%
システム制御装置	原単位売上高	百万円	442.1	587.7	421.6	



## 9. 環境経営目標及び環境経営計画の取組結果とその評価

※ 評価基準： ●：目標達成、▲：未達成、×；未着手

### 1) 二酸化炭素排出量の削減

(システム制御装置の売上げ高当り (Kg-CO<sub>2</sub>/百万円) を原単位とします。)

- ▲ 164Kg-CO<sub>2</sub>/百万円以下の目標に対し、194Kg-CO<sub>2</sub>/百万円で大幅に増加した。大型システムの制御盤試験およびエージングが長期間あり電力の大幅増となった。また新型コロナウイルス対策で換気しながらエアコン運転したのも増加要因となった。

太陽光発電による削減効果は“**トビックス**”で報告する。

### 2) 廃棄物排出量の削減

- ①一般廃棄物（焼却ゴミ）の2020年度削減目標を739kg以下としたが、505kgで大幅に削減できた。再資源化分別排出が定着した成果です。

- ②産業廃棄物の最終処分量は1,632kgで対前年度の69%に減少した。売上げ減による相対的減少。再資源化分別を継続。

### 3) 総排水量の削減

- 今年度の水使用量は、前年度比101.0%でした。お客様の試験等の来客増よる生活水で新たな対策はしない。

### 4) 化学物質使用量の削減

- 前年度比54.1%。  
生産量の減少及び購入月のブレによる。

### 5) 生産性の向上

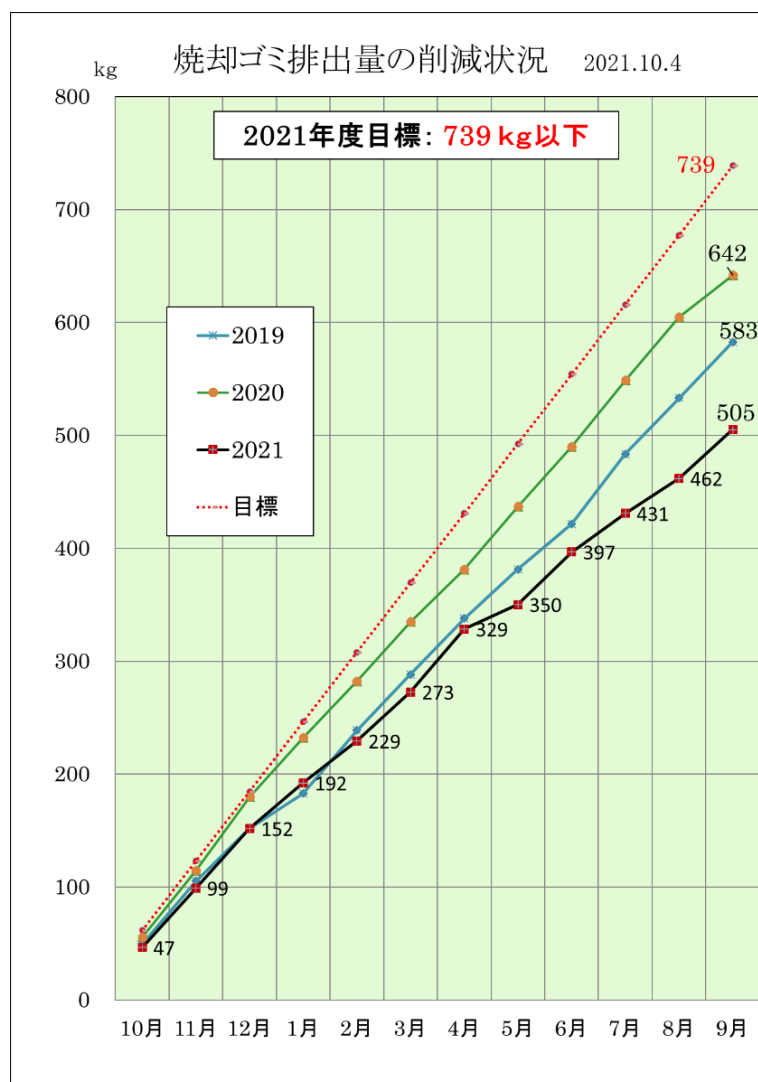
- ISO9001:2015をベースに工程内不良の削減を推進。徐々に成果が出てきた。

### 6) グリーン購入比率の向上

今年度の切替え購入品はありませんでした。引き続きグリーン購入に努める。

### 7) 環境保全、社会貢献活動

- ▲ 社団法人「小さな親切」運動の参加は新型コロナウイルス対策で中止しました。



# トピックス

## 再生可能エネルギー（太陽光発電）3年間の成果

2014.9.18 発電開始から7年が経過、その発電量実績を報告します。

**設備概要** 太陽電池パネル（190枚）設置、パワーコンディショナーは熱損失を考慮し北側に設置。

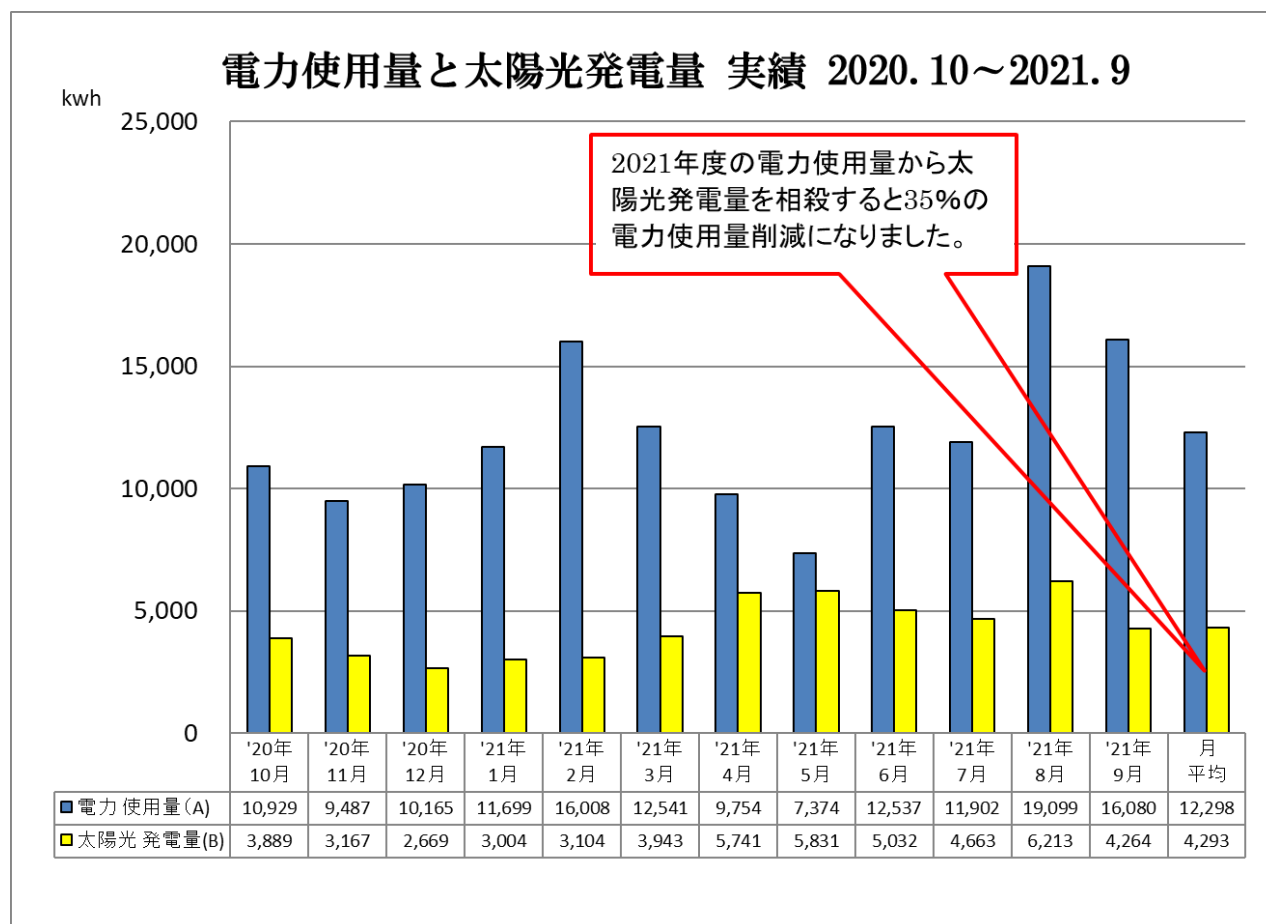
**発電出力：43.3kw** 本社玄関に太陽光発電量「見える化」モニタを設置。

**年間太陽光発電量と電力使用量実績（2019年度～2021年度）**

	電力量	CO2 排出換算 *1
2019年度 太陽光発電 年間発電量実績	51,279kwh/年	▼23,332 kg-CO2/kwh
2019年度 年間電力使用実績	128,900kwh/年	58.650 kg-CO2/kwh
2020年度 太陽光発電 年間発電量実績	50,438kwh/年	▼22,949 kg-CO2/kwh
2020年度 年間電力使用実績	139,805kwh/年	63,611 kg-CO2/kwh
2021年度 太陽光発電 年間発電量実績	51,520 kwh/年	▼23,442 kg-CO2/kwh
2021年度 年間電力使用実績	147,575kwh/年	67,147 kg-CO2/kwh

\*1 2020年東京電力エナジーパートナー(株)公表の調整後排出係数 0.455 kg-CO2/kwh で算出。

**太陽光発電設備導入による効果 2021年度実績**



## 10. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

### (1) 中長期目標（2021年度～2023年度までの3年間）

	テーマ	担当部署	中長期の目標（2020.10～2022.9）
1	二酸化炭素 排出量削減	全部署	過去15年間で省エネ設備への切替えも終わり大幅な削減は見込めない。短期目標は定めず業務全体における「電力・化石燃料使用量（システム制御売上高当りを原単位とする）」を、過去3年の平均実績(164kg-CO <sub>2</sub> /百万円)以下で削減に努める。 注) 2020年東京電力エナジーパートナー(株)公表の調整後排出係数0.455 kg-CO <sub>2</sub> /kwhで算出
2	廃棄物排出量 削減	全部署	業務全体における「可燃廃棄物」を、2020年度目標の762kgより3%削減する739kg以下を3年間の目標とする。
3	総排水量削減	全部署	水は主として生活系で使用しており、生産工程系ではほとんど使用していない。節水に関しては今までに改善を行ってきており今後、更なる環境影響度の大きな効果が見込めないため数値目標を定めずに節水に努める。
4	化学物質使用量 削減	全部署	化学物質(PRTR)は主にプリント基板製造の半田付けであり、今後大きな効果が見込めないため数値目標を定めずに削減に努める。
5	生産性の向上	全部署	ISO9001:2015 マネジメントシステムの運用本格化。各部署で課題を決め、品質目標を設定する。
6	グリーン購入 比率の向上	事務局	今年度より事務消耗品、工具および設備品のグリーン購入品切替目標を定めず、グリーン購入切替えに努める。
		業務・購買 関連部署	半導体および制御部品はほぼ切替えが終わり、大きな効果が見込めないため、数値目標は定めずにグリーン購入切替えに努める。
7	社会貢献活動	全部署	「小さな親切」運動の会員として地域の清掃活動に毎年参加する。

### (2) 単年度目標

	テーマ	2022年度目標(2021.10～2022.9)	数値目標
1	二酸化炭素 排出量削減	過去3年の平均実績以下で削減に努める。	164 kg-CO <sub>2</sub> ／百万円以下
2	廃棄物排出量削減	可燃廃棄物を削減する。	739.0 kg以下
3	総排水量削減	節水に努める。	
4	化学物質 使用量削減	数値目標を定めずに削減に努める。	
5	生産性の向上	ISO9001:2015 マネジメントシステムの運用本格化。 (各部署で課題を決め品質目標を設定する)	
6	グリーン購入 比率の向上	事務・設備購入品・購買品 ：数値目標は定めずにグリーン購入切替に努める。	

## (3) 次年度の環境経営計画の内容

計画項目		目標	主な活動内容	日程
1. 二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減	過去3年の平均実績以下で削減に努める。 【数値目標】 164kg-CO2/百万円以下	毎日のチェックリストによる確認と節電の継続	年間継続
	化石燃料の節減		エアコン運転ガイド(冷暖房温度と運転時間)による運転の励行	
		【数値目標】 164kg-CO2/百万円以下	エアコンフィルターの定期点検・清掃の実施	
			不要な照明は個別スイッチでこまめに OFF	年間継続
			太陽光発電(売電) 監視・記録	年間継続
			社有車のエコドライブの推進	年間継続
2. 廃棄物排出量の削減	可燃廃棄物の削減	【数値目標】739kg	「廃棄物分別/排出の流れ」のルールを実践継続	年間継続
	産業廃棄物のリサイクル化		機密文書の溶解委託(リサイクル)	
			燃やせるゴミの記録(ゴミ袋をカウント)	
			プラスチックゴミの記録(ゴミ袋をカウント)	年間継続
			分別の徹底で再利用とリサイクル業者へ	年間継続
3. 上水道使用量の削減	全部署 維持管理	節水に努める。	手洗い・トイレ等の生活水を節水	年間継続
	担当部署		上水道使用後の閉栓の確認	
4. 化学物質使用量の削減		数値目標を定めずに削減に努める。	PRTR 物質の購入量を把握及び維持管理	年間継続
5. 生産性の向上	品質と業務効率の向上 ISO9001:2015 マネジメントシステムの運用本格化。		部署単位で改善の実行計画立案・実行	実行計画
			社長とのヒアリング	
			P⇒D⇒C⇒A⇒でスパイラルアップ	
6. グリーン購入の推進	事務・設備購入品	数値目標は定めずにグリーン購入切替に努める。	環境への負荷が少ないものを進んで購入	年間継続
	購買品		RoSH 対応品などグリーン購入品切換えを積極的に行う	年間継続
7. 社会貢献活動の継続	「小さな親切」運動		「クリーン作戦」に毎年参加	2月
			「使用済み切手収集活動」の継続	年間継続
	地域の清掃		運動公園のゴミ拾い	4月

## 1.1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 当社に適用される環境関連法規の遵守状況を確認(2020.10.5)した結果、違反はありませんでした。  
(確認者：事務局矢野)

【評価基準】 ○：該当する要求事項を全て遵守している △：不適合があったが是正済み ×：不適合

法規等の名称	適用設備・施設・規制値	要求事項	実施日 ／内容	評価
大気汚染防止法	ボイラー(灯油小型給湯器)を 廃棄し、適用外		非該当	○
水質汚濁防止法	特定施設なし、適用外。	・2013年10月2日に特定施設の廃止 届提出。	非該当	○
浄化槽法 浄化槽法施行令 伊豆の国市浄化 槽条例	浄化槽 50人槽以下	・法定検査(法11):本社、第1,2工場 ・保守点検・定期清掃(年1回)(法10)	毎年 11月 実施	○
騒音規制法 静岡県生活環境 の保全等に関する 条例	圧縮機 3.75kw以上 エアコン:3台(第2工場)該当 コンプレッサー:該当なし	・特定施設からの騒音に関する規制の 遵守及び施設の届出 (エアコン3台が該当)	届出済	○
振動規制法 静岡県生活環境 の保全等に関する 条例	圧縮機 7.5kw以上 エアコン :該当なし コンプレッサー:該当なし	・特定施設からの振動に関する規制の 遵守及び施設の届出 (規制値以下で届出不要)	非該当	○
廃棄物処理法 (産業廃棄物)	表示板掲示(60×60cm以上) 契約書・業者の認可証  A,B2,D,E票を5年間保管  特別管理産業廃棄物の処理  処理業者施設の実地確認	・保管施設の表示と保管基準の遵守 ・収集運搬業者及び処分業者の委託契 約及び契約書の保管 ・産業廃棄物管理票(マニフェスト)の使用 ・産業廃棄物管理票交付等状況報告書 の届出 ・特別管理産業廃棄物管理責任者を置 き、帳簿を備え5年間保存する ・中間処理業者へ確認 最終処分業者は優良	'21.4.7 報告済	○ ○ ○ ○ ○
消防法	指定数量 1/5 未満で届出不要	・消防法に規定する危険物	非該当	○
毒物及び劇物取 締法	別表第2 劇物	・容器に白地に赤で「劇物」の文字で表 示	非該当	○
フロン排出抑制法 (2015.4法改正)	業務用エアコン(23台) 恒温槽(2台)  全て圧縮機 7.5kw 未満で 対象:簡易点検の義務	・特定製品を廃棄する場合、フロン類の 適正かつ確実な回収・破壊される措置を 講じる・管理表を持って、廃棄する  ・簡易点検の実施(3ヶ月毎)	廃棄な し  12、6、9 月実施	○
化学物質管理法 (PRTR法)	取扱量既定値以下で届出不要	・対象物質の購入量・使用量の把握・管 理(キシレン、トルエン、鉛) ・SDSの管理	管理	○
労働安全衛生法 (有機溶剤中毒予 防規則)(鉛中毒 予防規則)	IPAほか 作業主任者の選任  特殊健康診断の実施	・職場における労働者の安全と健康を確 保、快適な職場環境の形成促進  ・年2回実施(4月、11月)	確認済	○
RoHS指令	プリント基板用共晶半田(鉛)	・顧客の要求に応じて鉛フリーに対応	実施	○

(2) 過去3年間に渡り、関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟等もありませんでした。

## 12. 代表者による全体の評価と見直し・指示

確認項目	報告内容（管理責任者）	評価（会長）	改善指示（社長）	改善の結果/予定
環境関連法規等の順守状況	環境法規制等一覧表の半年毎チェック結果による。	良好。	なし	
苦情を含む利害関係者からの重要な情報	EMS 運用開始から 16 年経過したが、1 件も発生していない。	良好。	なし	
組織の環境パフォーマンス	おおむね良好です。	良好。	なし	
環境目標の達成状況	二酸化炭素排出量の削減：目標より 18%オーバーしましたが、大型システムの長期間エージングによるものです。  「生産性の向上」では ISO9001 をベースに工程内不良削減を推進	良好  引続き「生産性の向上」の推進が最重要になる。	次年度は品質を第一に考え行動する。 課題を明確にし「生産性の向上」を継続（PDCA の定着）と連携強化に注力する。	次年度の全体目標とする。
	その他はほぼ目標達成。	良好。維持継続。	特段の見直しの必要はない。	
問題点の是正および予防処置の状況	特にありませんでした。	良好。	特段の見直しの必要はない。	
前回までの見直しに対するフォローアップ	なし			
環境関連法規等を含む周囲の状況の変化	なし	なし	特段の見直しの必要はない。	
改善のための提案・その他	前項以外の「レビューにあたって考慮する事項」に該当するものおよび提案はありません。	なし	特段の見直しの必要はない。	
全体評価/指示	<p>2005 年 10 月にエコアクション 21 活動を開始してから早や 16 年になります。この一年は ISO9001:2015 の手法で品質に拘る取組みが結果に表れてきました。一方で新型コロナウイルス感染症が長期化したことにより我社も部品供給の遅れ等の影響が出ました。来期は我社にとって一番大変な試練の一年になります。</p> <p>売り上げ増が厳しい状況下で大切なことは危機感を持っていかに仕事をやっていくかです。『それぞれの部門が連携して如何に早く納品できるか早期打ち手を考え、お客様の要求に最善をつくす』を第一に取り組みましょう。</p> <p style="text-align: right;">(2021.12.10 記)</p>			